



要望に応え常にマイナーチェンジ

# 軽くて割れにくい「プロネジ」、顧客の環境に応じて提案

## 大峰化学 株式会社

### 事業内容と沿革

#### 射出成形による熱可塑性樹脂をいち早く採用

プラスチック製工業部品の開発、製造、販売を行う。現会長の大西峰夫氏が昭和35年に大峰化学工業所として創業。金属のねじが主流だった中で、頭部をプラスチック製にしたノブネジを開発して大きな注目を集める。

プラスチックといえば、「直圧成形で製造する熱硬化性樹脂」という考え方が一般的だった1960年代後半に、新技術の射出成形で製造する熱可塑性樹脂をいち早く採用。これまでの熱硬化性樹脂は、耐熱性は高い反面、強い衝撃を受けると割れやすい。熱可塑性樹脂はその点を克服し、軽量で割れにくく、カラフルな製品の生産が可能となった。製造時間も大幅に短縮された。ただし、射出成形は直圧成形よりも大規模な設備が必要となることから、昭和44年に創業の地の布施市(現 大阪府東大阪市)から現在の大阪府門真市に移転。それを契機に、現在の主力製品であるノブネジ「オオミネプロネジ」の製造を始める。昭和46年に大峰化学(株)に社名変更。平成18年に大西康弘氏が社長に就任する。現在はオオミネプロネジが売り上げ全体の30%。それ以外は射出成形による農業機械部品・医療機器部品などの製造が50%。残り20%は各種産業機器など小口部品の製造で100社以上から受注している。

### 強み

#### 顧客の状況に合わせて最適な設計を提案

射出成形による熱可塑性樹脂の製品は、水田で使用する田植機など、軽さと耐久性が求められる現場で需要を伸ばした。ただ開発当時の製造現場は、鉄からプラスチックに切り替わり始めたばかりの時代。メーカーの担当者も、鉄の100倍もの熱膨張率を持つプラスチックの特性がわからず、研究開発の段階から打ち合わせが必要だった。そこから現在でも、顧客の使用環境にあわせて最適な形状や材質などを提案する営業スタイルが続いている。

今やノブネジは多くの専門メーカーが扱っているが、大峰化学の強みはそこから他のプラスチック製品の受注につながっていること。顧客の強い信頼を得ることで、ねじ以外のプラスチック部品の受注を受けることも多い。

平成22年には握る部位が柔らかい「オオミネプロネジソフト」を販売。内部の金属ねじと接するナイロン樹脂の外側を、エラストマーで覆うという二重構造が特徴。ぶつかっても衝撃を吸収しやすく、力が弱い高齢者でも握りやすいため、安全を考慮した医療・介護分野からの引き合いが増えている。また、ナイロン樹脂との溶着に適したエラストマーを特別に配合しているため、外側のエラストマーがはがれにくいのも特徴の1つである。



多品種少量専用の設備機器導入



展示会にも積極的に参加



射出成形を始めるため門真に移転

- 企画・提案
- 試作・受託
- 短納期対応
- 多品種少量
- 量産対応
- コスト相談
- オンラインワン

### カドマイスターの取り組み

#### れんこん焼酎で地域活性化を

地域への貢献活動にも積極的な大西社長。地元の有志とともに特産品の門真れんこんを使った焼酎の製造・販売を始めた。もともとは門真地域内だけで流通する地域通貨を普及させられないかという発想。その地域通貨を発行・運営し、公民連携の窓口となるために、平成20年にNPO法人「あいまち門真ステーション」の設立に尽力した。その地域通貨でしか買えない商品として、地元特産品のれんこんに着目。れんこん焼酎は今でもネット販売を除いては門真市内の居酒屋でしか飲むことができない。大西社長は、「活動を通じて、付き合いが薄かった農家や商店街の人たちと集まるようになり、ボランティア活動の輪が広がった」と意義を語る。

さらに、本社工場の屋上に太陽光発電パネルを設置。周辺への電力提供も行っている。CSR(企業の社会的責任)の一環であるため、その電力を自社の工場用に用いることはない。「地元企業として地元へ貢献できることをしたい」と熱く語る。

いつも地域貢献を胸に  
プラスチック成形で顧客の要望に応える



代表取締役社長  
大西 康弘 さん

射出成形によるものづくりを得意とし、自社開発製品である「オオミネプロネジ」を中心に、農業器具や医療機器部品などを手がけています。プラスチックの特性を踏まえ、顧客の要望に応じて適切な製品提案を心がけています。近年は介護・医療分野への参入を見込んで、衝撃が小さく高齢者でも使いやすい材質と形状の製品づくりも始めました。また本業以外にも、地元特産品を生かしたれんこん焼酎の製造・販売や太陽光発電事業など、地域貢献活動にも積極的に携わっています。門真の企業として地元へ貢献できないかという気持ちを常に大切にしています。

**主な事業内容**  
プラスチック製工業機械部品および特殊金具の開発・製造・販売

**主な取引先(納入先)**  
農機・産機・電器・医療・介護機器メーカーなど

【住 所】〒571-0002 大阪府門真市岸和田3-29-1  
【T E L】072-882-5249  
【F A X】072-882-6244  
【創 業】昭和35年4月 【設 立】昭和46年5月  
【資本金】1,000万円 【従業員】12名

### 今後の展開

#### 新製品開発よりもマイナーチェンジ対応を

オオミネプロネジは一見しただけでは気づきにくいですが、顧客の要望に応じて頻繁に仕様を変更している。また介護分野では特にオーダーメイドが主流となるので、量産が難しい。そのためメーカーとの調整がますます重要になってくる。

現在の課題は、新製品の開発よりも、既存のプロネジ製品のサイズバリエーションをいかに増やすかという点。大西社長は、「新しい製品を生み出すのは素晴らしいことだが、それには責任が伴う」と冷静に分析する。顧客の要望に合わせた仕様のマイナーチェンジが多いため、それに対応することの方が重要と考えている。そうした理由から、生産・販売の拠点を海外に展開する予定もない。品質の十分な管理が行えないのなら本末転倒というわけである。

今後は医療・介護分野向け製品と、少量多品種生産が一層求められる。「少量専用の設備機器の導入を進めることで、どれだけ対応できるかがカギをにぎる」と考えている。

<http://www.mkc.zaq.ne.jp/omine/>

